

観光立県千葉を目指す

意見交換会開催

ユニバーサルデザインへの対応急務

5月16日、森田知事の推奨する観光立県千葉を目指す意見交換会が千葉県交通安全施設業協同組合(千葉市白鳥和重理事長)の主催で開催された。

外国人対応として多言語表記(日・英・韓・中)を行う。

また、ピジターの誘導・案内の連続性を確保し、回遊性を高めるような適切な場所、情報等を工夫し設置する。

以上が意見交換会開催の趣旨で、観光立県に向けた活発な意見が交わされた。

県内外からの観光客・ピジターに対し、観光スポットへの適切な誘導、わかりやすい観光情報の提供を行い、外国人を含めた来訪者がひとり歩きできるような受入環境整備を図るため、観光サインの整備を実施する必要があると、観光振興の重要な課題となつている。

ユニバーサルデザインへの対応として、共通色を定め、観光サインの統一的なイメージ形成を図り、表面的には書体や文字の大きさ、表現方法などのルールを統一的に用いることで、多くの人に理解されやすく、わかりやすい情報発信を行う。写真や図を用いることで、観光対象物等に対する理解を促す。設置の仕方や大きさを表示面の高さなど、一定のルールを設けることで、多くの人が利用しやすいものとする。

外国人対応として多言語表記(日・英・韓・中)を行う。

観光振興に欠かせない道路網の整備

柱です。その振興策につき、現状の問題点を分析するとともに今後の展開を読み解く上でのヒントを見出すため、忌憚のない意見をお話いただきたいと思います。最初に千葉県議会観光立県推進議員連盟の会長を務めております、川名県議会議長からお願い致します。

川名 千葉県議会観光立県推進議員連盟は平成15年12月16日に設立しました。7党派(自民党、民主党、公明党、みんなの党、千維声、無所属、生活)66名で構成され、議員連盟としては、地震・津波対策議員連盟に次ぐ規模です。

24年度は、5月23日の観光物産協会通常総会への出席、6月28日は総会と、「24年度の観光施策の取り組み」をテーマとした勉強会。

9月10日は南房バラダイスと渚の駅館山の視察、10月1日は県内視察の結果を受けた勉強会、11月1日は県観光物産大会への出席などを実施しました。

観光事業の振興といっても、それぞれの議員が観光名所を知らないのでは話にならないので、主な活動としてその各地域を訪ねて回りました。

栄町の房総のむら、香取市では、伊能忠敬記念館、伝統的建造物保存地域、君津市では漁業資料館や富津市新工、ネルギーパーク、匝瑳市の飯高壇林、

旭市の大原幽学記念館、御宿町では月の沙漠記念館などを回り、議員同士の共通認識とした。また、先日亡くなられた杉田議員からは観光振興には大型バスが通行できるように道路網の整備が欠かせないとの意見があり、視察にはこの観点を考えながら回りました。以上が議員連盟の主な活動状況です。

中島 次に県の観光担当部長の床並さんから行政としての取り組み状況、観光立県千葉の推進基本計画の見直しなどについて、ご意見をおうかがいます。

地域と協力して、観光基本計画の策定を

床並 これからの観光振興策として、地域の総合的な魅力の確立を目指す方向で、行政だけでなく、地域の旅行者や飲食店などを含め、いろいろな方々に取り組んでいただき、お客さんに来ていただくことを念頭に今年度に総合計画を作り、観光基本計画の見直しもしていく予定です。

このために、市町村の観光協会、商工会議所や商工会、県の地域振興事務所などと協力して、千葉の観光をもう一度掘り起こしたく、昨年は地域ごとの話し合いを持ちました。この中からいくつかのキーワードが出てきました。名所を見学するだけでなく、これからはさらに深く勉強をしたり、体験をしたいというリピーターを増

やすこと。また、円安にともなう外国人の旅行者、特に東アジアや東南アジア諸国の旅行者の受入れなど。

アクアラインや圏央道が整備され、成田空港の発着枠の増加など、観光客を受け入れる基盤もできつつあることなどを考慮して、観光計画を作成して行きたいと思っています。

中島 それでは、次に観光立県支援フォーラムの代表である鈴木さんに民間からの視点で、ご意見をうかがいたいと存じます。

もてなしの心とランドマーク

鈴木 千葉県の観光立県振興には様々な課題があります。まず観光地の人々の観光に対する心構えです。生活が豊かなものだから民宿などにして泊まらせてあげるという態度勝手に休むこともある。それぞれが殿様で「あっちがやるならうちも反対」という気風というか風土なのか、そのような傾向があつて、道路整備なども随分苦勞をしました。

白砂青松と言われる九十九里浜で60年の松を枯らしてしまつたことなど、その典型ではないか。空中敷布をすれば防げたはずなのだが周辺の反対で貴重な観光財産を失う羽目になつてしまつた。

これを解消するために「もてなしの心」が大切だということで口座を開いた。専門の講師を招いて開いたので、この講座は大変評判が良かった。観光

振興にはこの気持ちが大切で、この辺から変えていかないとよくなるない。これは県庁時代のことだが、道路網の整備も随分手がけた。128号、127号、297号、410号など。県都1時間構想も形になつて来つつあるが、首長の協力が欠かせない。圏央道の開通にともない、これと連動するように、幹線道路網の整備も不可欠。観光地への誘導はランドマークなどのように絵で誘導しようという構想はすばらしい考えだと思う。半島性と袋小路、これを脱却しないといけない。課題は沢山ある。

中島 次に道路環境課長の露崎さんをお願いします。

圏央道とアクセス道路の整備

露崎 意見を述べる前に千葉県交通安全施設業協同組合の皆さんにお礼を言わせてください。平成20年から毎年、夏の交通安全週間の前に道路上のカーブミラーや案内標識などの設置物の清掃を、ボランティアで行つていただき、大変感謝しております。今後ともよろしく願ひいたします。

さて、圏央道の7割が開通致しました。これは観光事業の振興に重要なネットワークとして機能していくと期待をしております。アクアラインとの連動でさらなる効果が期待されますが、鈴木さんからも指摘がありました。アクセス道路の整備が急務で、特に防災機能もかねる櫛の歯的に延びる道路整備です。半島部へ誘導する道路整備を課題として取り組んでいかなければなりません。

占いことですが、平成元年に当該が取り組んだ一つに幹線道路に愛称名を付けました。県内大プロジェクト拠点あるいは観光地と連結する広域的幹線を対象に道路愛称づくり運動を行い、

昭和62年度、同63年度に制定した愛称名は24あります。内房沿いの127号には内房渚ライン、白浜には房総フラワーライン、外房では九十九里ビーチライン、芝山町では、芝山にはわ道、房総横断道路や東金街道、大網街道、茂原街道など主な幹線道路には名前を付けて来ました。

また、圏央道の開通にともない観光地への誘導する案内標識を充実、強化していく必要があると考えております。主要なポイントに案内板を設けるなどして観光客を誘導する方法もあり、これらの課題と考えています。中島 最後に白鳥理事長から組合としての取り組みとランドマーク標識の提案について説明して頂きたいと思ひます。

観光誘導に 目で見て分かりやすい ランドマーク標識の導入を

白鳥 千葉県には成田空港や東京ディズニーリゾートなど集客拠点があります。外国からの観光客をいかにして観光地へ誘導するかが観光振興の課題と思われまふ。目で見て分かりやすい標識、ランドマークの設置が望まれるところで、北海道や長野、青森など観光誘導標識の観点からも千葉県は遅れているように思ひます。観光地はともかく、観光地へ行く過程の案内の整備が重要と考えています。



フリートーク

中島 これよりフリートークに入り
ます。大型連休前に圏央道が開通し
たことにより県外からの客が3割増
えたと言われます。東京、神奈川から
アクアラインを利用してアクセスし
たと見られるところから、圏央道、ア
クアラインを核とした観光振興のご
意見をたまわりたいと思います。

川名 共通認識が必要ですが、例え
ば10万人とか100万人が訪れる名
所にはその数を地図上に落として、
それをもとにインフラ整備をする。
福岡に行った時にランドマークを見
たが、そこには日本語の他、英語、中
国語、韓国語と4ヶ国語の表記があっ
た。外国人の観光客を受け入れるに
は案内板にも国別対応を考えなけれ
ばいけない。

私の地元鹿野山は、富津側から登っ
て富津へ下りるルートが主である。
年間80万から100万人が訪れる
1300年を超える名刹神野寺があ
る君津方面に下りるルートを整備す
れば鴨川や大多喜方面にも人が流れ
観光振興に繋がる。そして、大型観光
バスが通行できる道路整備が必要に
なってくる。

床並 県では一度サインシステムの
ガイドラインを作ったことがありま
す。この時は2ヶ国語だったが、今後
は4ヶ国語を考えないといけない。

県では今、「観光地魅力アップ事業」
を展開していて、トイレに案内板や

誘導標識を設置するようにしていま
す。また、市町村によってはさらに細
かい、歩いて回れるような案内板を
作り、県が補助をしています。

鈴木 道路というものは目的の地に
くために作るもので、公共事業は最
大の福祉であると考えています。ア
クアラインは15億円で800円。四
国には3年間で特定財源1兆5千億
円も使っている。これを考えればもつ
と強気になって良い。千葉県だけの
ものではなく、関東一円に波及する
効果を考えなければいけない。さら
に、湾口ラインで半島性を解消するべき
だろう。

関東平野はどこまで行っても平ら
千葉県もそう。道路が迷路の様に
なっているから、どこからでも目的の地
に着ける。知らない人を誘導するわけ
だから案内板の設置場所にも気を配
らなといけない。

露壽 道路上の案内標識は約400
0基近くあるが、道路案内標識は、1
次生活圈や2次生活圈などの都市名
を表示することになっており、観光
案内とは少し異なります。

道路案内標識の表示の制約もある
ので既成の標識との整合性を考えな
いといけません。市町村との連携し
た取り組みが必要だと考えています。
また、防災も考慮して、利用者に分か
りやすい標識としていくことも重要
ではないでしょうか。

中島 ランドマークの設備は宮城県
などでは良くできている。中小の自

治体などには無理があるのではない
か。

床並 広域的なものではできて
いる。ランドマークの設置について
は道路環境課へアピールしているが、
現状は県の出先機関で予算が余れば
出てくる状況。3年前から香取や安
房等自治体と折衝してきているが未
だに結論がない。

露壽 取り組みにバラツキがあつて
実情を把握し、検討していきたい。
金子 4月19日の読売新聞にカラ
ー塗装の記事が出ていたが、これにつ
いても検討していただきたい。

露壽 交通安全対策としては、本来
歩車分離が望ましい。特に通学路に
おいて、緊急的な対策として、路肩に
巾があれば、カラー舗装は今年度か
ら国の補正も活用して実施していきま
す。歩道の整備は用地買収が伴うため、
地元市町村の協力をお願いしてい
たいと考えています。交通安全に対
する取り組みはしっかりと実施して
まいります。

金子 千葉県には外国人向けの英語
中国語、台湾などのパンフレットが
あるのに誰も知らない。

床並 高山のパンフレットがアメリ
カにある。極めて実用的で千葉県も
そうしたいが、一人で来るような人
には無理がある。職員にタイ語の堪能
な人がいてタイが今千葉県に関心
を持ってきている。このように、い
ろいろなチャンスを観光に生かせれ
ばと思っています。

鈴木 道の駅は千葉県が日本一。こ
れを拠点に道路や観光情報を伝える
のが良いのではないかと。

中島 サイン標識の整備はどういう
意味が必要か、という行政面での「お
墨付きが欲しいのですが」。

露壽 インフォメーションとしては
カーナビやネットなど種々な手段が
あるが、誰でもというわけではあり
ません。標識は歩行者にとっても車
にとっても視認ができ、目的の地に向
かっているという安心感があります。

観光のサイン標識は地元市町村等
との連携した取り組みが必要だと考
えます。つまり、道路案内標識は目的
地まで案内し、その周辺を含めた観
光案内のサイン標識を地元市町村等
が行うことができればよいのではな
いかと考えます。

床並 年間に5、6市町村が案内標
識を設置しており、これまでに設置
した市町村が18ある。銚子等は平成
22年度に52ヶ所も設置した。ご要望
があればサポートします。

鈴木 いずれにしても千葉県の観光
振興は意識改革が第一。立教大学の
観光講座でも首長が朝から晩まで地
域を見て回り、まずきれいにするこ
とと観光スポットの掘り起し、案内
標識で誘導することでしょう。

白鳥 本日はご多忙のところ、貴重な
ご意見をありがとうございました。